

CANoeオプションXCP

ECU内メモリアドレスへの読取/書込アクセス

主な特長

- > 内部ECU値へのアクセスによる拡張テストオプション
- > 内部ECU値、バスシグナル、I/Oシグナルの並行解析
- > ASAM-A2Lファイルによる自動設定

XCPオプションは、ECUメモリーへのアクセス機能を追加することによってCANoeを拡張します。ECUメモリーへのアクセスは、ASAMによって規格化されたXCPまたはCCPプロトコルを使用して実行され、設定はA2L形式のファイルを使用して簡単に行うことができます。

応用分野

XCP/CCPを用いたCANoeでは、テストおよび解析作業のために、内部ECU値にアクセスできるようになっています。外部ECUシグナルだけを刺激入力、測定する単純なブラックボックステストとは対照的に、XCP/CCPを使用することで、ECUの内部値の読取/書込を行うことができます。内部のパラメーターを変更して特定のエラーを発生させ、その結果ECUがどのように動作するのかをチェックすることができます。また、ECUのソフトウェア内容を変えてテストすることもできます。異なる内容のソフトウェアは、XCPを使用して直接切り替えられます。その他、XCP/CCPを使用して、関連するメモリー位置に値を書き込むことによって障害センサー値をシミュレートすることもできます。

CANoe.XCPを使用した解析では、バスシグナルと並行してECUの内部パラメーターを解析することができます。端子状態やタスク変更などのステータス情報を、解析時に参照することができます。

機能

- > XCP-on-CAN/FlexRay/EthernetおよびCCP-on-CANをサポート
- > スカラー値の書込と読取
- > ポーリングおよびDAQ (Data Acquisition) リストによる読取
- > 動的および静的DAQリスト
- > 複数ECUに対するテストと解析の並行実行

特殊機能

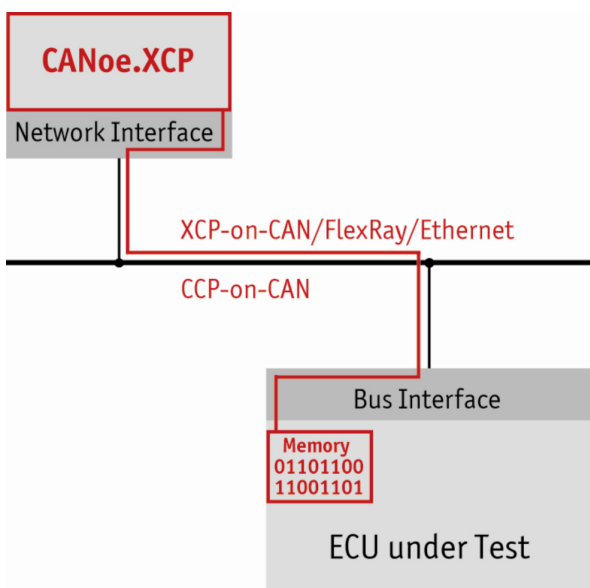
- > ベクターのVX1000ハードウェアに対応し、ECUのNEXUS/JTAGインターフェイスによる高速データ交換を実現
- > Seed&Keyによるセキュアアクセス
- > CANoeのあらゆる機能にて、XCPシグナルをシステム変数として使用可能
- > ECUのタイムスタンプの解析
- > CANoe RT (Real-Time) で実行可能

CANoeでの統合

CANoeがXCP/CCPマスターとなります。設定は、A2Lファイルで簡単にできます。XCPシグナルはCANoeのシステム変数として使用できるため、テスト機能セットやCAPL、.Net、MATLAB/Simulink、CANoe解析Windowからのアクセスも可能です。

システム要件

「CANoe」のデータシートをご覧ください。



XCP-on-CAN/FlexRay/EthernetおよびCCP-on-CANを使用したECUへのアクセス

※記述されている内容は予告無く変更されることがあります。(発行日：2011年5月12日)

ベクター・ジャパン株式会社 (東京本社) TEL: 03-5769-6980 (名古屋支社) TEL: 052-238-5020
Email: sales@jp.vector.com URL: http://www.vector-japan.co.jp/